

令和3年度 第1回京都市公共事業評価委員会 議事概要

第1回委員会では、令和3年度フォローアップ対象事業の進捗状況の報告、再評価対象事業及び事後評価対象事業の審議を行った。

1 日 時 令和3年9月6日（月）～9月22日（水）

2 場 所 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面により開催

3 出席委員

廻委員長、山口副委員長、岸委員、坂西委員、笹山委員、内藤委員、原委員、水原委員、山田委員、結城委員

4 内容

委員会における議事概要は、以下のとおり。

（1）委員長及び副委員長の就任

昨年度末で戸田委員長が退任されたことにより、委員長を選出した。委員長は、京都市公共事業評価委員会設置要綱第5条第2項に基づき、委員の互選により選出することになっており、昨年度まで副委員長であった廻委員が選出された。副委員長は、同第5条第4項に基づき委員長が指名することとなっており、山口委員が就任した。

（2）フォローアップ対象事業の進捗状況の報告

委 員：厳しい財政状況ではあると思うが、着実に進めてもらいたい。

（3）再評価対象事業の審議

・栗尾バイパス

委 員：一旦、事業を休止としているが、将来的な見通しはどのようなのか。

京 都 市：財政的に厳しい状況が続くため、当面は事業進捗が図れないと考えている。事業を再開する際は、本委員会に諮ることになる。

委 員：他にもたくさん事業がある中で優先順位をつけて、事業休止としているのか。

京 都 市：事業休止としている理由は、事業の必要性は高いが、前回の再評価から5年間進捗がみられず、今後5年程度は進捗が見込めないことからである。

委 員：事業を休止する際の基準はあるのか。

京 都 市：これまで「事業休止」とする場合の明確な基準を委員会で示していなかったことから、第2回委員会で一定の基準を事務局から提案したいと考えている。

委 員：未着工区間の現道にあるトンネルの点検や必要な補修等は実施するということであり、仕方がない。

委 員：事業休止は残念であるが、京都市の厳しい財政状況を考慮するとやむを得ない。

委 員：審議の結果、京都市の対応方針案は妥当であるとする。

・二ノ瀬バイパス

- 委員：事業休止はやむを得ないが、危険な法面の防災対策はしっかりと行っていただきたい。「今後の道路整備事業の進め方」においても実施する事業になっていないのか。
- 京都市：平成28年度末に策定した「今後の道路整備事業の進め方」では、各事業の課題や整備状況、財政状況等の条件を総合的に判断して進めていく事業を決定しており、本事業は実施する事業に入っていない。
- 委員：B/Cの便益として、貨幣価値に換算できない事業効果も多くあるのではないか。
- 京都市：例えば、二ノ瀬バイパスは、貴船、鞍馬、花背への日常生活に欠かせない主要道路であり、観光に係る経済効果、リダンダンシーの確保等の防災効果もあるが、これらは貨幣価値に換算できない便益である。どのような便益が考えられるか次回の委員会で示したい。
- 委員：災害が頻発するなかで、孤立する地域をなくすことや、災害復旧の際に大きな車両が通行できるようにする等、重要な事業ではあるが、先ほどの事業と同様に、優先順位の関係上、仕方がない。
- 委員：トンネル等、事業の主要箇所が完成しているということもあり、事業休止で仕方がない。
- 委員：審議の結果、京都市の対応方針案は妥当であるとする。

・七瀬川

- 委員：豪雨災害が増えており、住宅地も近いので事業継続は妥当であり、できるだけ早期に完成してもらいたい。
- 委員：こちらの事業もB/Cの便益として、貨幣価値に換算できない事業効果もある。浸水被害を軽減できる範囲を視覚的に示す等も効果的である。
- 京都市：下流部の二層式河川のせせらぎ河川や遊水地の整備により、近隣住民の憩いの場になることや浸水被害軽減（浸水被害想定範囲の減少）による住民の安心感が向上するなど貨幣価値に換算できない便益はある。
- 委員：近年、大雨が多く、七瀬川流域の宅地化が進む中、住民の方から事業の早期完成を望む声は多いと思われる。そのため、事業の重要性は理解できるので、対応方針案で問題ない。
- 委員：最近はゲリラ豪雨が多くなっており、被害を軽減できるというのは良いことであり、1日も早く完成してもらいたい。事業継続が妥当である。
- 委員：審議の結果、京都市の対応方針案は妥当であるとする。

・三条鴨東地区

- 委員：地権者が買収に応じなければ、このままの状態になってしまう。残り1件であり、「事業継続」は妥当であるが、事業効果を発現するためにも、買収できるまで全く進めないのではなく、できるところから進めてもらいたい。
- 委員：事業開始から時間が経過し、社会情勢の変化によりニーズも変わっているので、計画の見直しも必要になるのではないか。

- 委員：B／Cが0.99ではあるが、残事業が少なく、やり遂げるしかない事業ということは理解できる。事業の実施により防火効果の向上等を示した方がよい。
- 委員：事業はほとんど完了し、ここまで来ているので、何とか残りわずかを早期に進めていただきたい。
- 委員：審議の結果、京都市の対応方針案は妥当であるとする。

（４）事後評価対象事業の審議

・京都駅南口駅前広場の整備

- 委員：実際に利用し効果を実感している。歩きやすくなり、案内も分かりやすい。バリアフリーにも配慮されており、整備は良くできている。
- 委員：すごく便利になった。ターミナル機能がすごく改善されて、国際空港を出たときに、さばかれるような感じになって良かった。京都にたくさん見どころはあるが、東京駅のグランスタみたいなイメージで、地下にも魅力があって、人のさばきと合わせ、駅でも楽しめるというのもセットでアピールされたらもっと楽しい駅になっていく。
- 京都市：整備後は歩道拡幅や自転車と歩行者の動線を分ける等、歩いて楽しんでもらえるようになった。並行して近鉄の「みやこみち」が建物の中にあり、整備に併せてリニューアルされ、そこを通られる方にも楽しんでもらえただけ、にぎわいが創出されたと感じている。
- 委員：なぜB／Cを算定していないのか。
- 京都市：本事業は、コストの算出はできるが、事業効果が貨幣価値に換算できないため、新規採択時評価の時から算定していない。
- 委員：送迎スペースがあることをあまり広報されておらず、周知できていないと感じている。
- 委員：昔は多くの自家用車が送迎のため駐車してバスも輻輳していたが、それがなくなってよかった。
- 委員：わかりやすい駅前になり、車の流れもすっきりした。整備前は、自家用車で行った際にどこが入口かわかりにくかった。タクシーで行った際にも、入口から遠いところで降ろされていたりしたが、整備後は改善されて使いやすくなった。
- 委員：審議の結果、京都市の対応方針案は妥当であるとする。